



<Vol. 106 の記事>

大会報告 第3回キッズテニス大会 in SAITAMA 開催! 連載 プレイバック20年③ -2006年-

キッズテニス大会

○ 選手130人！ スタッフ55名！

10/31、駒場体育館において、第3回キッズテニス大会 in SAITAMAを開催しました。

この大会は、浦スポの呼びかけにより北本あさひ・文化スポーツクラブや鴻巣プレスといった県内の総合型地域スポーツクラブが実行委員会を組織し、全国でもまだ数少ないキッズテニスの大会を開催することで、キッズテニスを始めた子ども達に、貴重な経験をしてもらおうと始まったもので、今年度で第3回を迎えるました。

浦スポのキッズテニスに参加している子ども達の小学校の学校公開日に重なったことや、折からのインフルエンザなどもあり、心配されましたが、選手130名が参加し、無事開催されました。



(上写真は5・6年生開会式)

1・2年生、3・4年生、5・6年生のそれぞれのカテゴリーで熱戦が繰り広げられました。

この大会には、全国大会（毎年12月頃に横浜で開催）の役員の方も視察にこられ、運営のスムーズさに驚嘆されていました。

これも、50名を超えるボランティアスタッフの協力があってのことです。中には、第1回からずっと手伝ってくださっている方もいらっしゃいました。



この大会を開催することで、クラブのテニスプロジェクトのスタッフのみならず、さいたま市内を中心としたアマテニス選手（多くは、成人女子）とのネットワークが広がり、深まっていることを感じられます。

この信頼のネットワークは、今後のクラブの活動、地域におけるテニスの普及に大きな力となるものと思います。

さいたま市・スポーツ振興まちづくり条例

去る11月21日、さいたま市長のタウンミーティングが浦和区において開催されました。メインテーマは、「スポーツ振興まちづくり条例の制定」と「土曜寺子屋の実施」についてでした。

●さいたま市スポーツ振興まちづくり条例

清水市長は、県議時代に、埼玉県スポーツのまちづくり条例の制定にご尽力されていました。星空スポーツ広場の開催が可能となったのも、この条例に基づき、県立高校の開放などがいっそう進んだことによるものです。

この度、市長の提案により、さいたま市においても「スポーツ振興まちづくり条例」を制定しようということで、市民との意見交換の場が持たれたものです。

条例制定の目的は、①市民の体力の向上・健康維持、②スポーツを活用した総合的なまちづくり、③スポーツ施設の整備・充実 の3点にあります。

詳しくは、さいたま市HPをご覧ください

(<http://www.city.saitama.jp/www/contents/1117524041623/index.html>)

パブリックコメントを12月10日まで募集していますので、皆さんもたくさんの意見を述べ、スポーツ振興のいっそうの推進を願いましょう。

●多目的広場や芝生の広場が増える！！

この条例ととても深く関係するのが、さいたま市がこの11月に発表した「しあわせ倍増プラン2009」です。

この中で、市有の未利用地などを積極的に活用してボール遊びなどのできる多目的広場を増やすこと、保育園や学校、公園などの芝生化を、市民との協働により積極的に進めていくことなどが、目標年次を明確にして掲げられています。



2009年度も、浦和スポーツクラブでは、総合型地域スポーツクラブ活動助成を受けて活動しています。

これらのこととは、浦スポが、これまでに願い、主張してきたことと方向性を同じにするものであり、クラブにとってチャンスが広がったもの、クラブとしてもいっそその努力をしていくことで、実現化の可能性が広がってきたものと考えられます。

税金をたくさん使ってハコモノを増やすのではなく、既にある施設を活用していくためには、活用する市民としても知恵を絞り、汗を流して実現していくことが必要です。

連載⑤ 子ども達の遊びの変化

本号では、競技力向上や体力向上の視点から、総合型地域スポーツクラブが求められている点について説明します。

●基礎の違いを無視して、経験を押しつける指導

すでに、いろいろなところで指摘されていることですが、以前は遊びの中で自然と身に付けてきた「コーディネーション能力」、近年の子ども達には、十分に遊べる場所も時間も与えられず、スポーツをするための基礎的体づくりができていないことが少なくありません。

ところが、少年団などの指導においては、このことを無視し、目の前の試合に勝つためや、技術的に向上させるために、高度な練習や戦術を教えようとしていることが見受けられます。

少年少女のスポーツの大会や練習で、指導者から発せられる言葉「何で、こんなことができないんだ！」、「教えたことをなぜやらない！」・・・罵声とも取れる子どもの尊厳を無視したこのような言葉は、聞くに堪えないものがあります。それ以前の、反射神経とか体の使い方とか、そういうことが身についていないのですから、上手くできるわけがありません。

●単一種目でできなければ、みんなで協力して・・・

近年では、コーディネーショントレーニングなどの必要性が注目され、いろいろな取組みが始まっています。

しかしながら、それぞれの種目の少年団等において、どのような練習を行なえる指導者が、十分に育っているわけではありません。サッカー、野球、バスケットなど、どうしてもそれぞれの種目に偏った中でのトレーニングになりがちるのが現状です。これでは、子ども達の能力が本当の意味で向上していくことは期待できません。

そこで、種目を超えて、地域の子ども達の体作り・動きづくりに取り組む機会をつくっていくことが必要であり、種目の異なる団体であっても、地域、特に幼少期のスポーツ指導者は、そのために連携をとることが求められます。子どもの運動能力の底上げを図り、いろいろな種目を試す中で、自分の得意な種目、好きな種目を選んでいけるようにすることが、本当の意味での競技力の向上につながるのではないでしょうか。

単一種目の団体には成しえないことであり、地域でのような役割を担うことが期待されているのが、総合型地域スポーツクラブなのだと思います。

プレイバック浦スポ③ 2006

プレイバック浦スポの三回目は、現在のクラブの組織基盤づくりが具体的に始まった2006年を振り返ります。

●職員雇用・スタジオ整備・フラット常盤

10月に、現在の石塚ビルへ引越しをしました。

8月に臨時総会を開催し、移転候補を絞り込みました。改装には、それまで毎年少しずつ繰り越して積み立ててきた財産（約600万）が必要となる大きな決断となりました。

たくさんの力が集まることで、こんなことも実現できるのだと、実感した時でもありました。

また、サッカー広場や体操広場で活躍している中山さんが、クラブの職員1号として勤務を始めたのもこの年からです。



さらに、埼玉工業さんのご厚意により、フラット常盤をお借りすることができるようになったのも、この年でした（翌年、市のモデル事業に応募して、現在の「ふらっと広場」に発展）。

領家スタジオやフラット常盤の活用により、会員が1400名まで増加していました。

●中古テニスボールの回収と学校への配布

NPO法人GSAの推進する中古テニスボールを回収し学校の机や椅子の脚のカバーに取り付ける事業の主旨に賛同し、クラブでも取り組み始めました。

埼玉県のクラブフェスタでは、浦スポのテニス部門を中心となり1万個を超える中古テニスボールを集めました！その後、市内を中心に、18校の図書館や教室に、浦スポで集めたテニスボールが使われるようになりました。

●各プログラムも新たな展開が

サッカー育成部門の指導者の辞任を受け、この春から、柴田監督、大藤コーチを常任指導者として、さらには、NTT関東や大宮アルディージャで活躍された佐藤さんをコーチとしてむかえいれて、育成部門の再スタートを切りました。U15と生涯が合同夏合宿を菅平で実施。地元上田高校OBチームとの親善試合などを行ないました。



キッズテニスでは、中尾小学校で新たにプログラムを開始しています。

●県立高校開放モデル事業にむけた話し合い始まる

現在、全県で実施されている県立高校の運動施設開放事業ですが、この実現にむけたクラブと県、浦和高校で話し合いが始まったのが2006年10月でした。企画立案し県に提案してから2年かかりましたが、県議会でも「スポーツ振興のまちづくり条例」が審議され始めており、県としても事業推進の根拠ができる一つあることも、後押しになったようです。